

くすり関連施設基本構想の概要

平成21年 3月 薬業物産課

1. 富山を象徴する拠点施設の必要性

- ・北陸新幹線の開業や東海北陸自動車道の全線開通など、高速交通網の整備による交流人口の増加が期待される中、県内外からの来街者に対して富山をPRできる施設、とりわけ「まちなか観光の拠点」となる施設が求められている。



- ・富山市には、「くすり」や「ますの寿し」といった全国的にも知名度の高い、いわゆる「富山ブランド」といわれる資源が存在する。
- ・その一方で、観光客や市民がそれら富山ブランドを体験し富山らしさを感じることができない「富山を象徴」する機能を持つ場所や施設は、市内に点在しており、必ずしも充実しているとは言えない。

2. 施設のテーマを「くすり」とする理由

①歴史的な背景を持つ「くすり」

- ・富山のくすりは、300有余年の歴史と伝統を有し、現在も富山の代表的な産業。
- ・歴史的には富山市産業の発展のみならず、全国の物流や文化交流にも大きく貢献。



②富山市における産業の礎となった「くすり」

- ・薬業は富山市の産業を築く資本の元となった産業である。

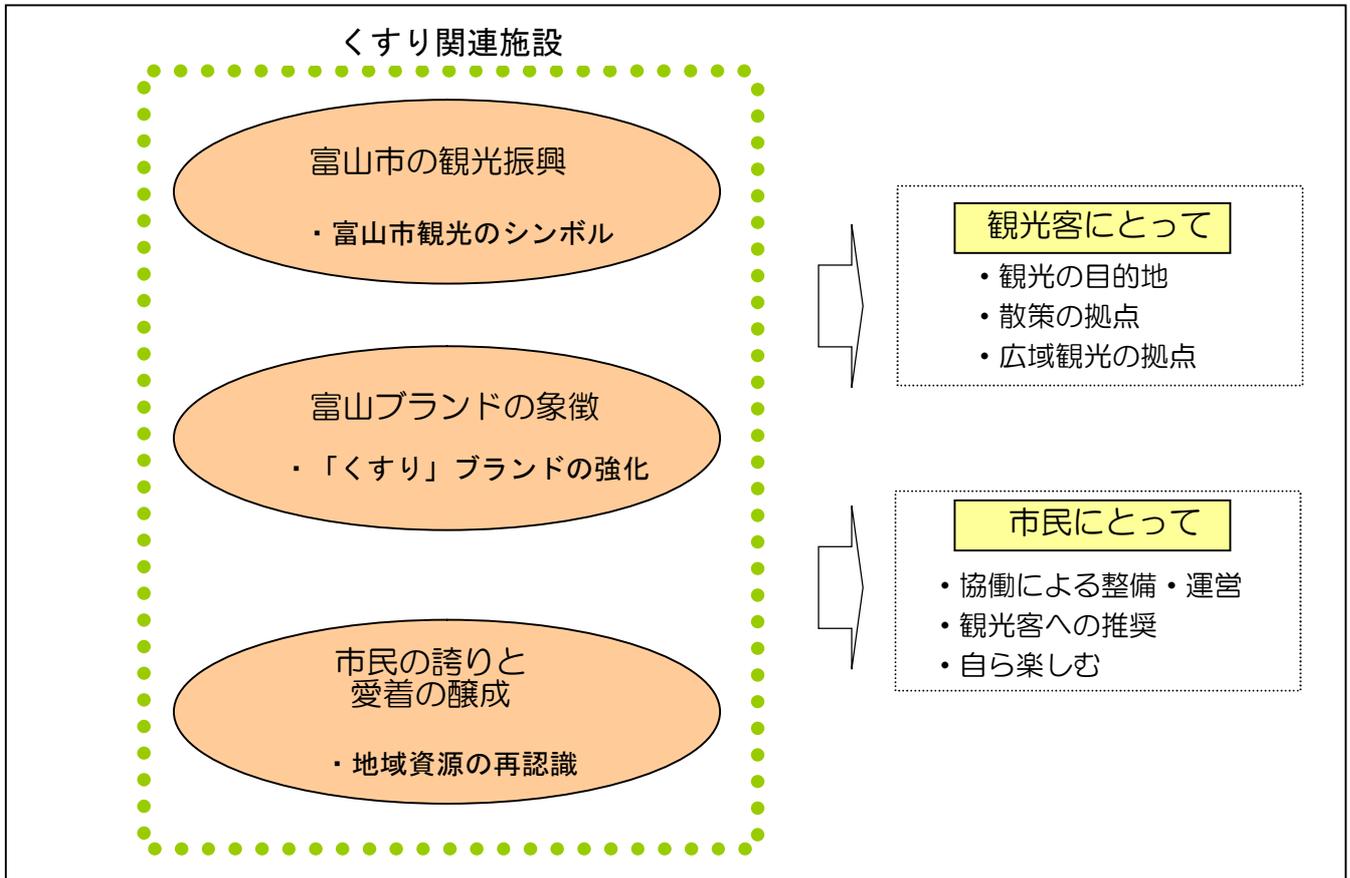
③富山のイメージは「くすり」

- ・インターネットによるアンケート調査では回答者の約1/4が「薬、薬売り、置き薬など」を富山のイメージとしてあげている。



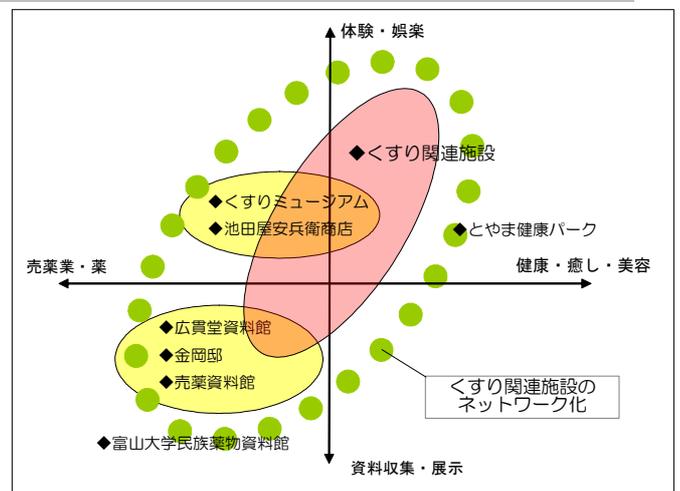
3. くすり関連施設が目指すもの

「くすり関連施設」は、富山市における観光や薬業振興の中核的施設として、「① 富山市の観光振興」「②「富山ブランド」の象徴」「③ 市民の誇りと愛着の醸成」の3点の実現を目標とする。



4. 事業展開の基本方針

- ① 産業界など多様な主体との協働
- ② 既存の観光資源との機能ネットワーク化
- ③ 中心市街地の回遊性の向上



既存施設とくすり関連施設の位置づけイメージ

5. くすり関連施設の整備場所

① くすり関連施設の整備場所

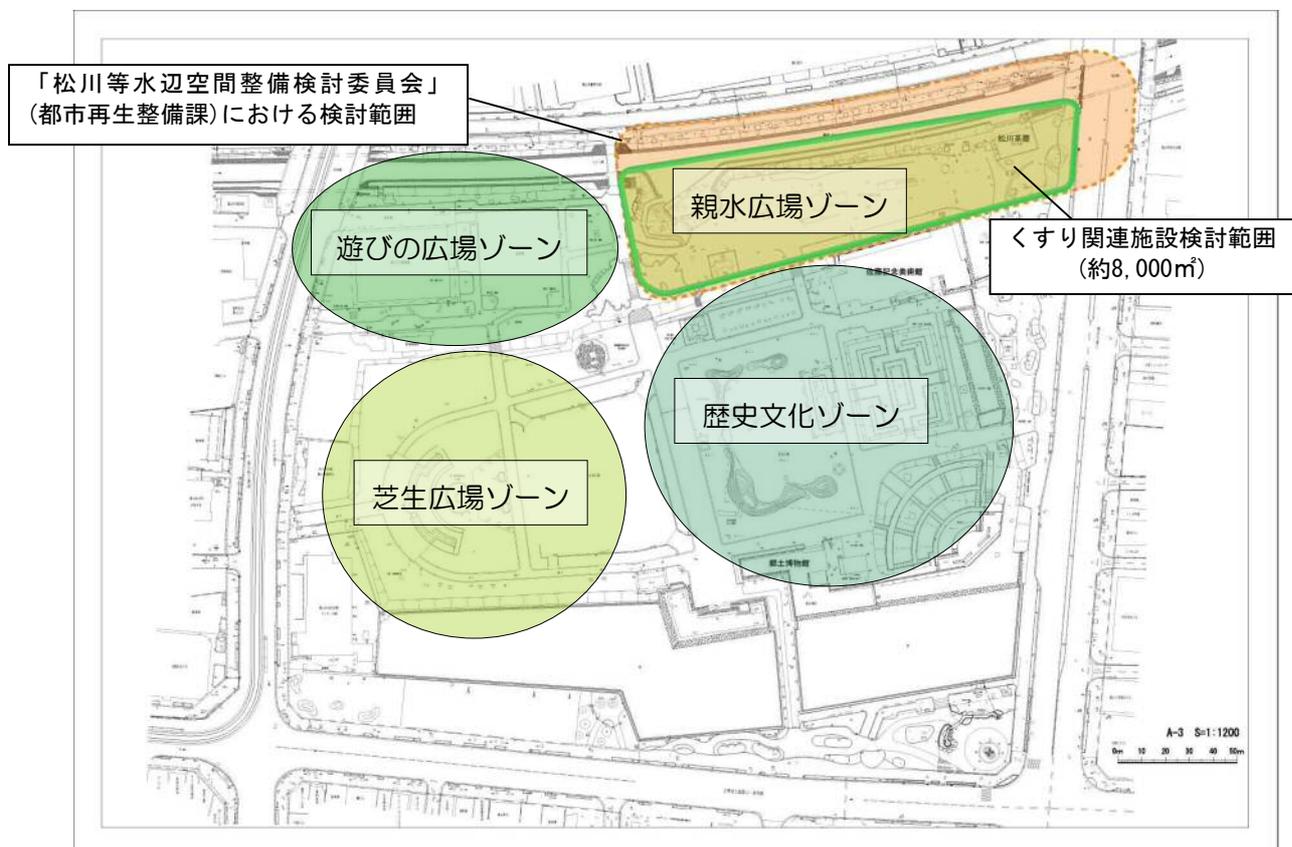
- ・くすり関連施設は、城址公園のもつ「シンボル性」、中心市街地への波及効果、城址公園整備との連携効果などを考慮し、城址公園に整備するものとする。

② 城址公園内における立地検討範囲

- ・城址公園内では、「松川等水辺空間整備検討委員会」で整備が検討されており、一体的な整備が可能であり、水辺や桜並木といった立地や景観を活かした施設整備が可能な「親水広場ゾーン」内を検討範囲とする。

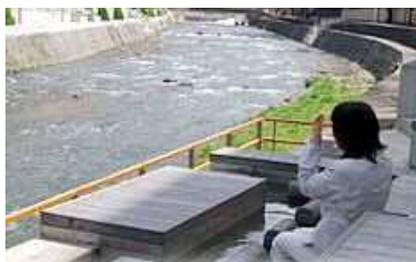
③ 課題

- ・くすり関連施設の整備に当たっては、現在の城址公園整備との整合性を図るため、関係部署との協議が必要である。
- ・城址公園の景観と調和を図るため、意匠や施設内容については充分検討する必要がある。
- ・埋蔵文化財調査が必要である。



③「くすり」と「人」との新しい関わり方の提案(くすり体験ゾーン)

- ・市民にとって親しみやすく観光客のニーズも高い、「くすり」の一つの側面である「美容」、「健康増進」、「癒し」について、五感を通して楽しめる体験施設とする。
- ・観光と集客を目的とし、「くすり」を通じたサービスを提供する、にぎわいのある空間。
- ・「美容」や「癒し」といった新しいくすりのありかたとライフスタイルの提案ならびに体験。



水辺空間を活かした足湯



健康相談



和漢美容コーナー

④観光拠点としての交流やにぎわいの創出(観光交流ゾーン)

- ・富山市観光のインフォメーション施設として、他のくすり関連施設とのネットワーク化を図り、富山市のまちなか観光の拠点としての機能を持たせる。また、娯楽性のある物販や、薬膳を取り入れた飲食(軽食)施設により交流とにぎわいを創出する。
- ・薬膳コーナー
- ・観光物産コーナー
- ・観光案内コーナー
- ・多目的スペース



薬膳カレー



ハーブランチ



健康食品やくすりの販売



くすりグッズ

7. 施設の配慮事項

①施設構成

- ・柔軟な平面構成によるニーズの変化や内容の陳腐化に伴う変更に対応できる構造
- ・老若男女、障害を持つ人、外国人など多様な利用者に対応できるユニバーサル対応

②配置

- ・城址公園全体計画のコンセプトや、文化財や既存樹木との関係に配慮
- ・松川沿いの立地を活かし、水辺空間との関係を活用、周辺施設との回遊性

③意匠

- ・城址公園全体の景観から突出しない意匠

8. 施設規模および整備費のイメージ

規模及び整備費は、立地場所や整備内容からおよそ以下のように想定される。

規模 約1,500～2,000㎡

展示体験系施設	: 約500～700㎡
飲食物販観光案内	: 約500～700㎡
共用・管理	: 約500～600㎡

整備費 約15～20億円

9. 施設の運営計画

① 運営の考え方

- ・民間のアイデアやノウハウを活用した事業運営を行う。

② 事業推進体制

- ・施設整備の段階からの産業界や研究教育機関と連携・協力、一体的な推進体制の構築

1) 産業界の役割

- ・観光集客施設として行政の発想を超える体験施設や飲食物販施設の運営、イベントの企画など、民間ならではのアイデアとノウハウの提供
- ・くすり関連の最新技術資料や製品、過去の歴史資料の提供
- ・産業界からの積極的な参加と協力

2) 研究教育機関の役割

- ・健康相談コーナーなど専門知識が必要とされるコーナーの運営協力・人材協力
- ・展示内容の監修や人材協力、収集資料の提供

③富山市の役割

- ・建設主体としての事業枠組みの確立と推進

10. 施設整備スケジュール

